

拝啓 今年も早や 12 月末、歳末の頃となりました。いかがお過ごしでしょうか。いつもエンカウンターお読みいただきありがとうございます。

我が家と近所の公園では、今はさざんかの木が赤やピンクの花をたくさん咲かせています。私は毎年春にスイトピーを軒下まで盛大に咲かせるのが特技です。10月に種をまいたのですが、今年はなぜか種の発芽が極めて悪く、がっかりしておりました。園芸店に聞いたところ 12 月にスイトピーの苗が入荷するということでしたので、苗を買って植え、何とか来年も連休の頃には軒下いっぱい花を咲かせてくれるでしょう。昔矢内原忠雄先生の本で読んだ、確か父上の「秋になり菊作ろうと思いきり」と言う俳句をいつも思い出すのですが、秋に菊が咲いているのを見て菊を作ろうと思っても遅い、一年前から丹念に準備しておくことが必要だ、という意味に解釈しています。

相沢良一先生の『黒潮の神学』の第 8 回をお送りします。南原先生の大島訪問のことを調べたくて、今『黒潮』の旧号の合本を、奥様の相沢悦子様よりお借りしています。『黒潮』がどんな伝道誌であったかをお示しするために、創刊号と、南原先生の追悼記事が出ている第 202 号のコピーを巻末につけることにします。『黒潮』は、昭和 26 年 6 月が第 1 号、終刊号は平成 14 年 3 月の 432 号でした。毎月、多い時には 4 万部送っていたそうですから、大変な作業だったと思います。相沢先生と奥様との共同作業でした。ちなみに、わがエンカウンターの発行部数は目下 18 部、内容も読んだ本の引用ばかりで文章を作る苦勞がありませんから、『黒潮』とは比較になりません。しかし、毎月定期的に一定の分量の原稿を用意して発送するという作業によって、『黒潮』のご苦勞、内村鑑三先生の『聖書の研究』のご苦勞を推測することができました。

先日久しぶりに相田みつを美術館に行きました。ちょうど星野富弘さんの花の詩画展も併せて行われており大変感銘を受けました。来年の相田さんのカレンダーの書の展示があり大変感銘を受けました。そのカレンダーを欲しいと思いましたが、「山と溪谷社」のカレンダーや星野富弘さんのカレンダー等毎年使うカレンダーをもう買ってあり我が家には飾るところがなかったので、その日銀座座教会の正午礼拝であかしされた本誌読者の米倉安雄さんに差し上げました。今年は、米倉安雄さんとご友人の船倉昌之さんのおかげで、エンカウンターがパソコンで、どなたでも読むことができるようになったことは、画期的なことでした。どうぞ一度のぞいてみて下さい。

今月号がお手元に届くのは年内だと思いますが、よいお年を迎えください。お風邪を引かれないように注意され、お身体ご自愛ください。 敬具

平成 22 年 12 月 27 日

山口周三

エンカウンターの読者各位